

ントが開催しやすくなつた。このタイミングでモデルルームへ訪れるオーナーに対し、同社が建設する賃貸住宅の遮音性能などを体感してもらう目的がある。

対象物件は、横浜市営地下鉄ブルーライン上永谷駅から徒歩4分程度の場所に立地する。ステー

ジングの予算の中でも、高級感のある商品の使用をかなえた」とコメントした。

高齢者向け見守りサービス

賃貸管理システムを活用

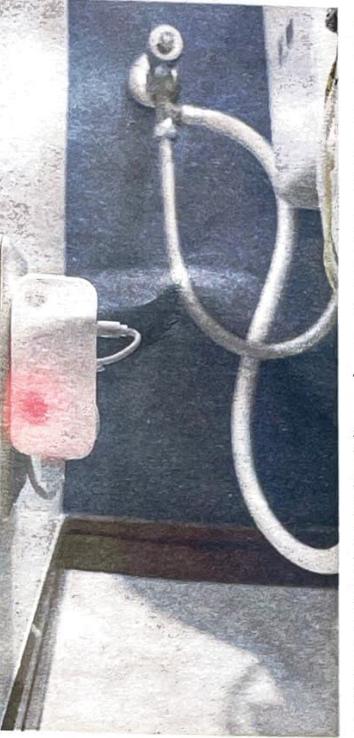


ヤモリ
(東京都港区)
藤澤正太郎社長(35)

オーナー向け収支管理クラウドソフト「大家のヤモリ」を手がけるヤモ

リ(東京都港区)は5日、あいおいニッセイ同和損害保険(東京都渋谷区)と協業し、高齢者向けの見守りサービス「みまもりヤモリ」の提供を開始した。

利用料は初期費用無料



▶みまもりヤモリの設置イメージ。写真はトイレに設置した様子

里絵社長は「今回ステー

ジングした家具は、実際にメーカーに問い合わせて購入することもできることで、限られたステー

で1台あたり月額1100円(税込み)。

同サービスは、ヤモリ

の賃貸管理クラウドシステムとIoTセンサーを

活用して孤独死の防止・早期発見をするもの。縦3cm、横7cmほどの人の動きを感じするモーションセンサーを搭載したI

oT機器をコンセントにつなぐ。トイレなど利用頻度の高い場所での設置を想定する。

センサーが感知する距離は約5m。24時間ごとに、動きが感知できなかつた場合、メールまたは

管理会社支援クラウドシステム「管理会社のヤモリ」を通じて、管理会社に連絡がいく仕組み。異常と判断する時間の間隔や連絡頻度については、入居者の生活パターンを蓄積し、1戸ごとに設定可能にする予定だ。

利用申し込みは、入居者への説明や正確な設置が必要であるため、管理会社を通じて受け付け

みまもりヤモリを導入することで、あいおいニッセイ同和損害保険の保

険料が割引された新規保険商品に加入可能だ。同

保険の契約者は不動産賃貸管理会社と地方自治体で、被保険者は家主。孤

独死などが起きた際の家賃減少分や原状回復費用などの諸費用を補償する。

今後は両社の持つ顧客基盤を生かし、2023年度に管理会社100社への導入を目指す。

ヤモリの藤澤正太郎社長は「サービスの導入先の管理会社と意見交換し、使いやすさと価格にこだわって開発した。高

齢者の孤独死は賃貸住宅市場の大きな課題だ。み

まもりヤモリを公共性の高いサービスとして捉え、自治体とも連携していく。当社のことを知つてもらうきっかけになれ

ばと正在して「と話した。同社は、オーナーや潜在オーナーの賃貸経営をサポートする有料サービス「ヤモリの家庭教師」も展開している。同サービスは4月14日時点で、会員数900人、入会待